

市立保育所あり方検討ワーキングチームの設置について

1 市立保育所の現状

(1) 施設の老朽化（別紙参照）

- 平均築年数 42.4年
- 最長築年数 50年

(2) 土砂災害警戒区域など危険区域での立地の解消

- 土砂災害警戒区域 2か所
- 洪水浸水想定区域 8か所（浸水想定3m以上 2か所）

(3) 職員を取り巻く状況の変化

○ 職員構成の低年齢化

年度	平均年齢	平均勤続年数
令和2年度	35.6歳	11.1年
平成22年度	41.3歳	19.1年

○ 正規調理職員の退職に伴う給食提供体制の変化

年度	2名体制施設	1名体制施設
令和2年度	2施設	11施設
平成22年度	9施設	4施設

○ 退職、産育休職員の増加

年度	退職者数（定年以外）
令和元年度	20人（13人）
平成30年度	11人（10人）
平成29年度	18人（12人）

年度	産育休取得者数
令和2年度	16人
平成22年度	7人

2 市立保育所あり方検討ワーキングチームの設置

(1) 目的

老朽化が進む市立保育所の建て替え等を見据えた再整備方針や働き方改革に向けた取り組みについて詳細な調査審議を行うため、ワーキングチームを設置する。

(2) 概要

- ワーキングチームは、子ども・子育て支援専門部会のもとに設置する。
- 委員構成は、保育行政や地方行財政などについて専門的な議論を深めるため、専門部会委員と臨時委員の計8名程度で構成する。
- 検討事項は以下のとおりとする。
 - ・ 再整備に向けた基本的ルール
 - 再整備の方向性、優先度、適正規模・適正配置について
 - ・ 働き方改革の推進
 - 働きやすい職場環境の整備に向けた取り組みについて
- ワーキングチームにおける調査審議については、子ども・子育て支援専門部会に諮り、その決議をもって金沢市子ども・子育て審議会の決議とする。

(3) 今後のスケジュール

7月からワーキングを開催（6回程度）

3月に市立保育所のあり方方針を策定

<市立保育所一覧>

(別紙)

エリア	施設名称	所在地	定員	児童数 (R2. 4. 1現在)	建築年月日	築年数 (R2. 4. 1現在)	耐用年数	建物階数	立地条件による危険性
北部	花園保育所	岸川町に46	70	74	昭和53年2月	42年	82年	1F	・洪水浸水想定区域 (0～0.5m)
	八田保育所	八田町東572	106	69	昭和47年12月	47年	65年	2F	・洪水浸水想定区域 (0.5～3m)
	薬師谷保育所	塙田町丙86-3	79	50	昭和50年1月	45年	82年	2F	・土砂災害警戒区域 ・洪水浸水想定区域 (3～5m)
	双葉保育所	吉原町ヨ-1	81	85	昭和57年4月	38年	82年	2F	・土砂災害警戒区域
	森山保育所	元町1丁目7-7	105	101	昭和52年3月	43年	82年	2F	・洪水浸水想定区域 (0.5～3m)
	宮野保育所	宮野町ホ79	40	13	平成14年4月	18年	100年	2F	・洪水浸水想定区域 (3～5m)
駅西・臨海B	金石保育所	金石北3丁目3-38	98	84	昭和54年3月	41年	62年	1F	
西部	矢木保育所	矢木1丁目40	100	94	昭和45年12月	49年	65年	2F	・洪水浸水想定区域 (0～0.5m)
	八日市保育所	八日市2丁目465	132	104	昭和49年1月	46年	82年	2F	
南部	三馬保育所	久安6丁目83	135	100	昭和45年3月	50年	65年	2F	・洪水浸水想定区域 (0.5～3m)
	光が丘保育所	光が丘2丁目104	132	127	昭和50年3月	45年	82年	2F	
	中村町保育所	中村町15-7	95	110	昭和49年3月	46年	82年	2F	・洪水浸水想定区域 (0～0.5m)
	大桑保育所	大桑町平42-48	50	35	昭和54年4月	41年	82年	2F	